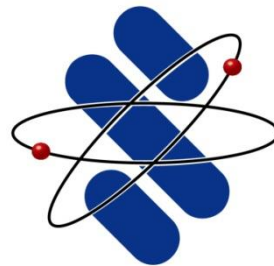


◆平成28年3月期 第2四半期累計期間

業績レビューと見通し



平成27年11月16日

 株式会社 昭和システムエンジニアリング

目 次

平成28年3月期 第2四半期累計期間	業績レビュー	
1 業績概要	4
2 経営成績	5
3 業種別売上比率(全社)	6
4 業績推移(過去5年)		
(1) 全社	7
(2) 事業別業績推移(ソフトウェア開発事業)	8
(3) 事業別業績推移(BPOエントリー事業)	9
5 貸借対照表	10
平成28年3月期	業績見通し	
6 業績達成のポイント	12
7 対処すべき課題の進捗状況	13
8 平成28年3月期業績見通し	14

平成28年3月期 第2四半期累計期間

業績レビュー

1. 業績概要（平成28年3月期 第2四半期累計期間）

売上高

3,420百万円

(前期：2,657百万円)

営業利益

235百万円

(前期：169百万円)

四半期純利益

150百万円

(前期：110百万円)

経済動向

- ・国内景気は緩やかに回復傾向で推移
- ・個人消費は底堅く推移し、雇用環境も良好
- ・中国経済の減速が国内経済に波及することが懸念される

情報サービス産業の動向

- ・マイナンバー制度をはじめ法改正・制度改正等に関連したシステム開発が増加し堅調に推移
- ・技術者不足の状態が継続

当社の施策

創業50周年に向けた3ヵ年計画の最終年にあたり
 「提案型ビジネスのさらなる推進」、
 「技術者の確保及びパートナー企業との連携強化」
 による受注拡大と安定的な稼働を追求

結果

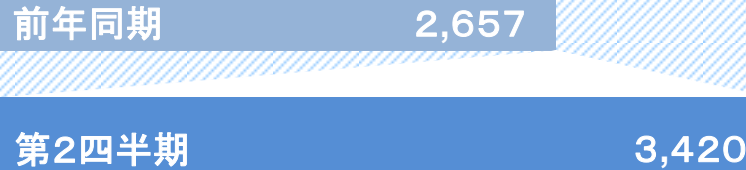
- ・金融システム関連の受注が堅調に推移
- ・売上高、営業利益ともに当初計画を上回る水準

2. 経営成績

前年同期対比で増収増益

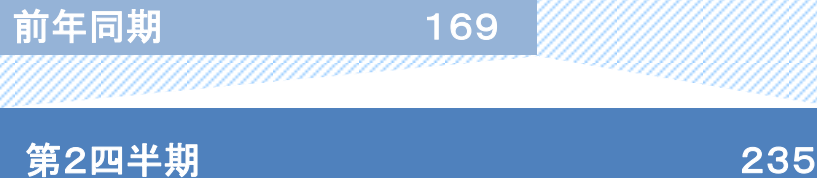
(単位：百万円)

売上高



↑
+763百万
前期比+28.7%

営業利益



↑
+66百万
前期比+38.5%

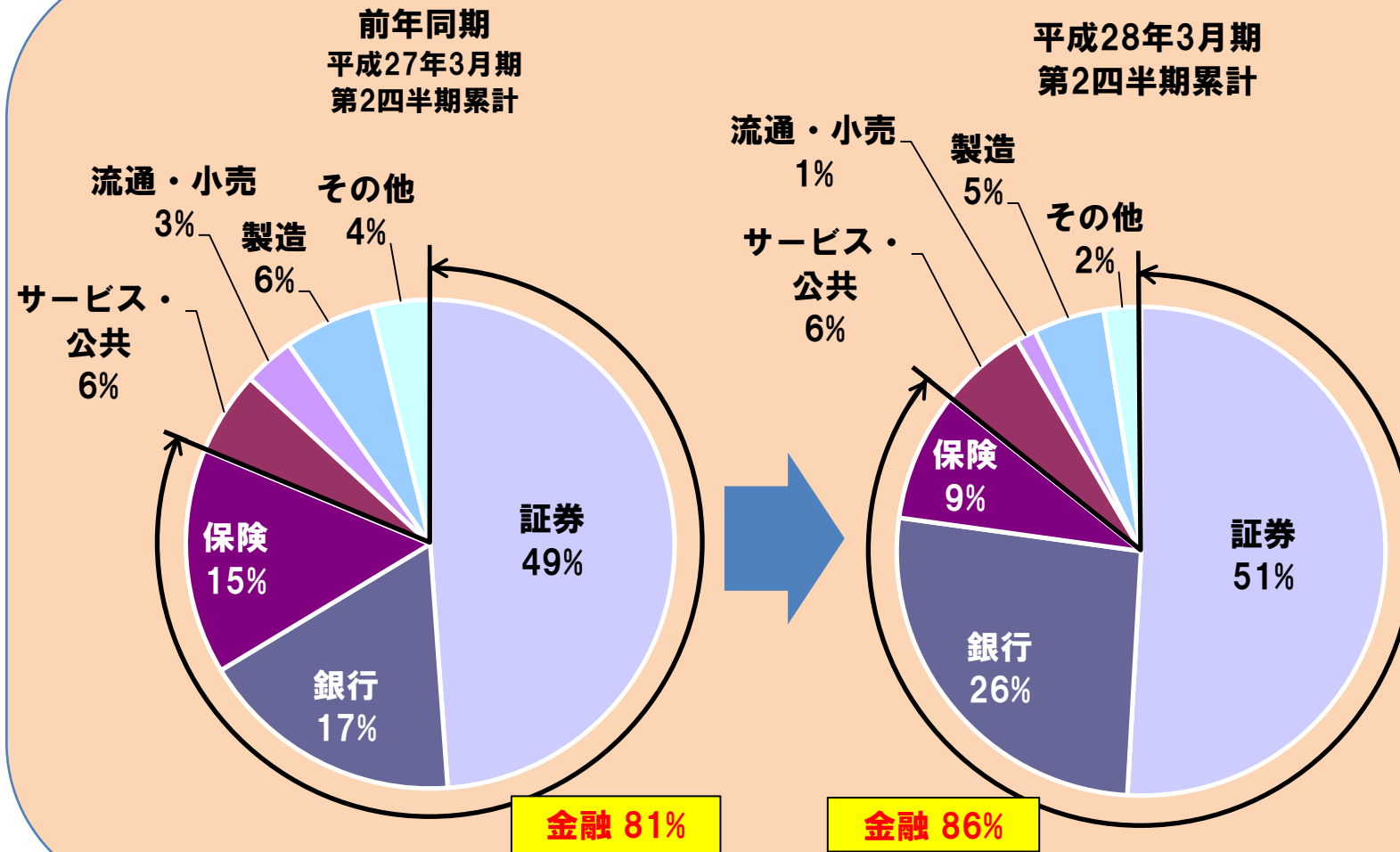
四半期純利益



↑
+40百万
前期比+35.8%

3. 業種別売上比率（全社）

主力業種である金融分野（証券、銀行、保険）堅調

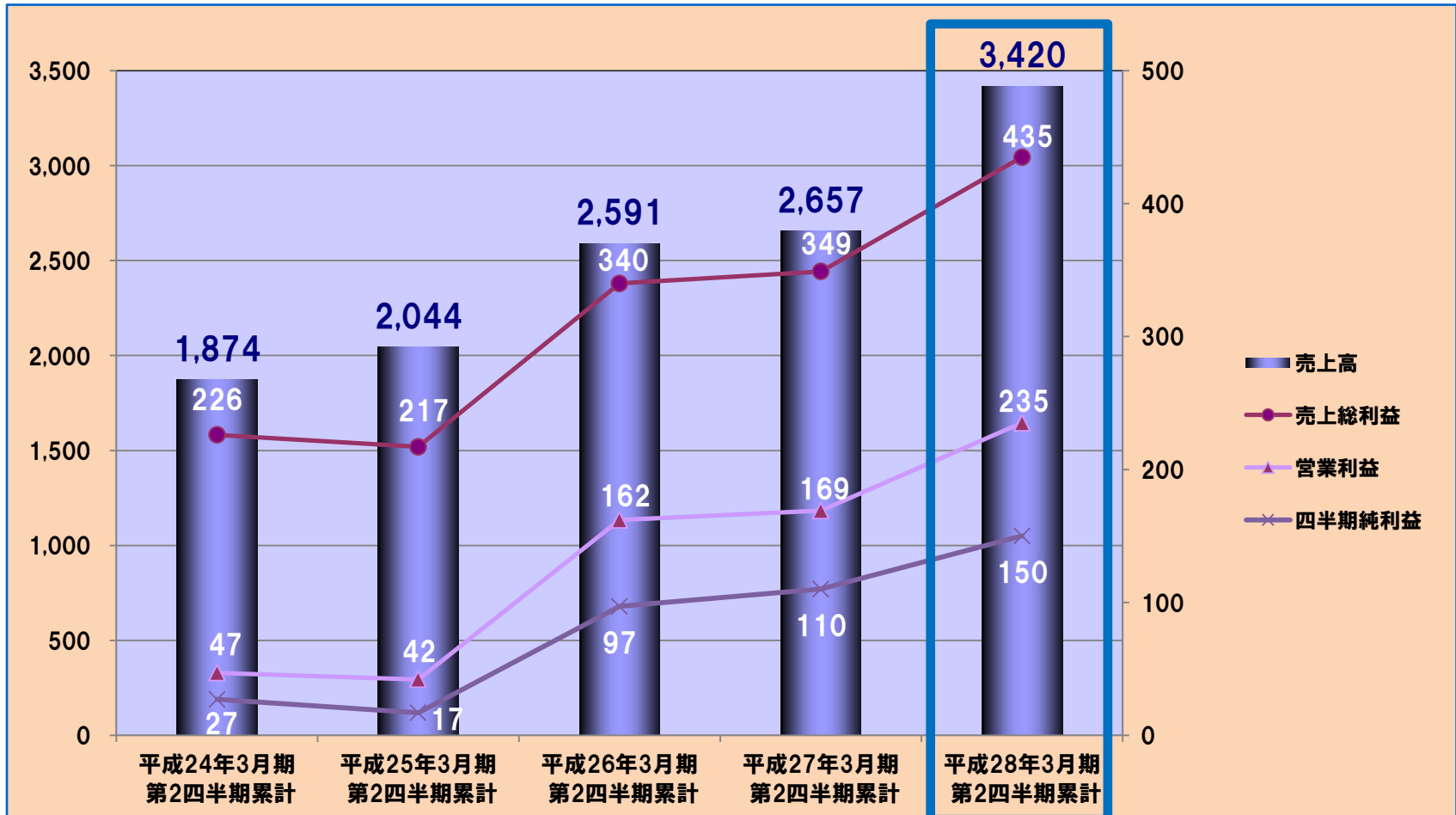


戻る

4. 業績推移（過去5年）

（1） 全社

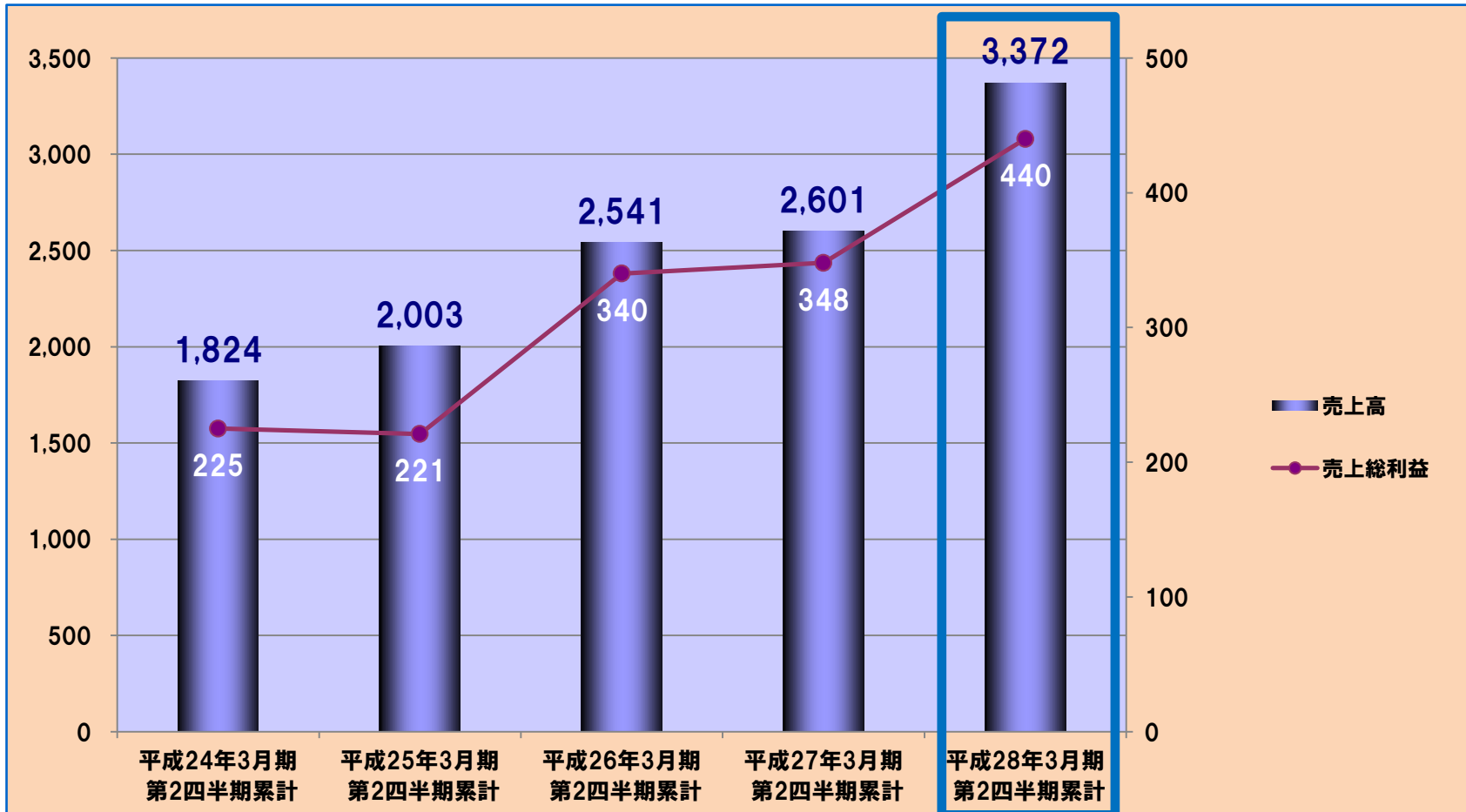
（単位：百万円）



4. 業績推移（過去5年）

（2）事業別業績推移（ソフトウェア開発事業）

（単位：百万円）

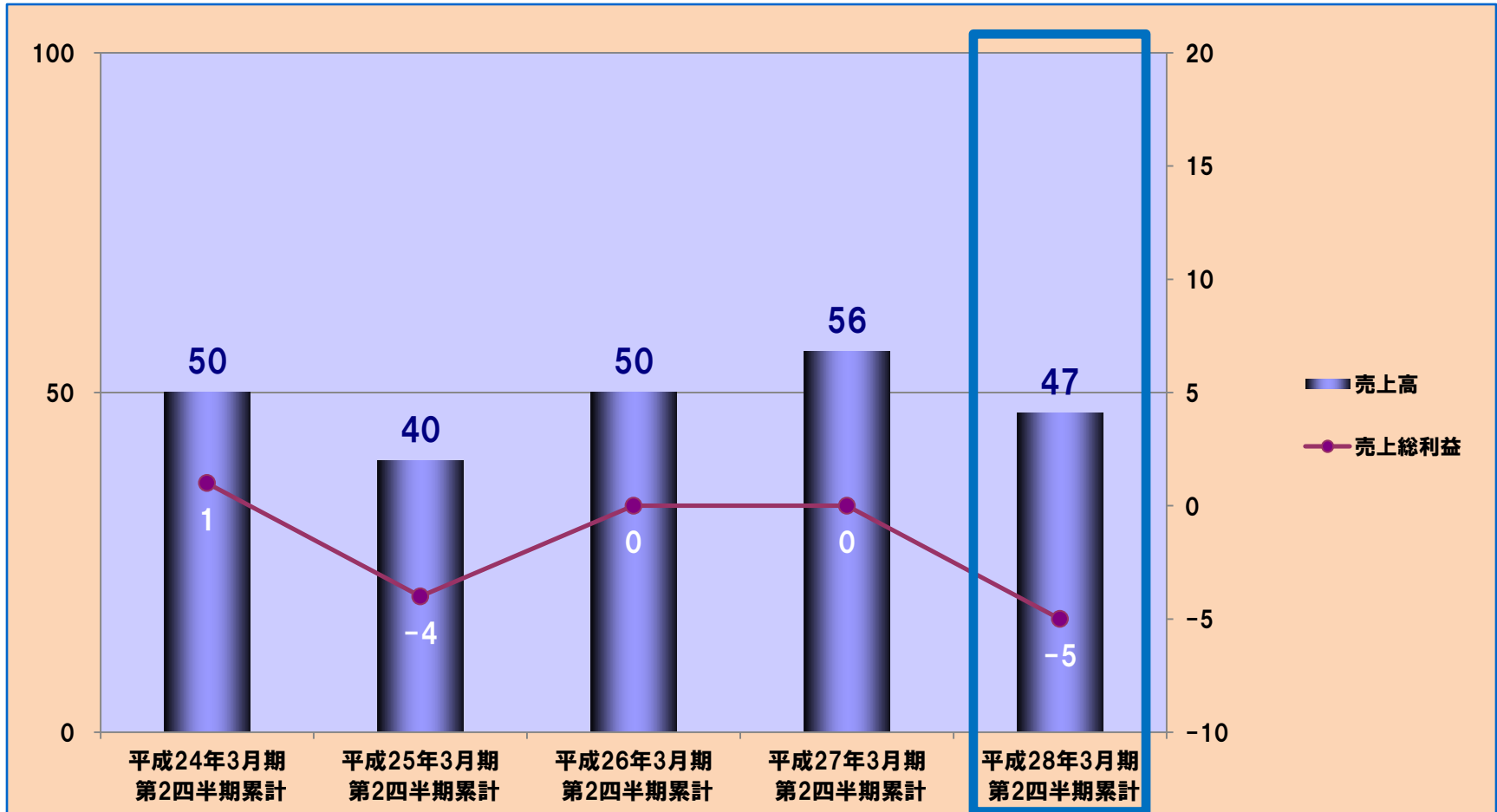


金融システム関連の受注が堅調に推移したことから、売上高、売上総利益ともに前年同期を上回る水準で推移。

4. 業績推移（過去5年）

（3）事業別業績推移（BPOエントリー事業）

（単位：百万円）

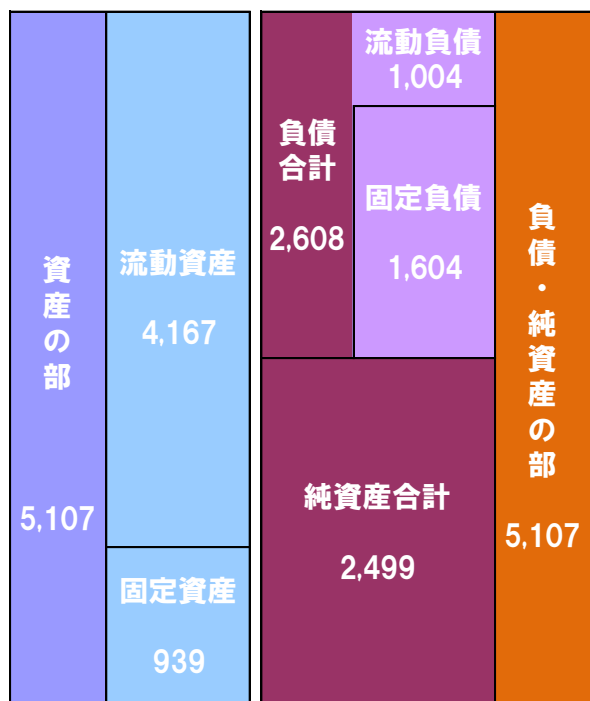


BPO事業の競争が激しく、売上高、売上総利益ともに前年同期を下回る。

5. 貸借対照表

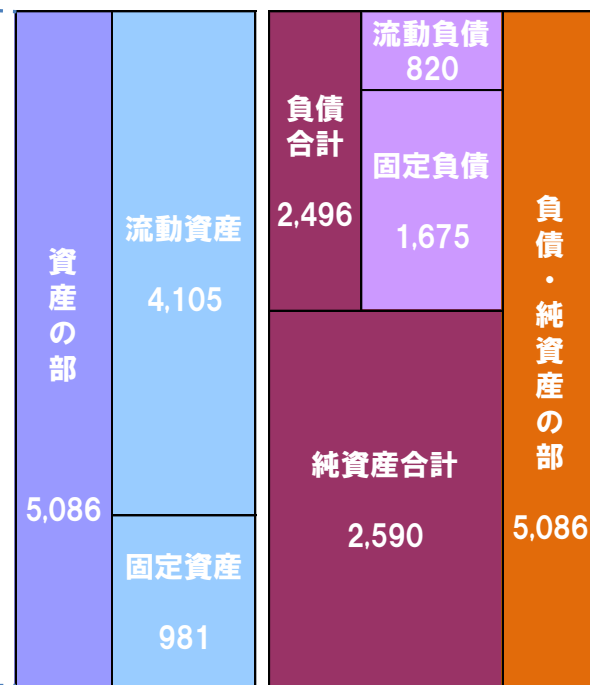
前事業年度
平成27年3月期末
(平成27年3月31日)

(単位：百万円)



平成28年3月期第2四半期末
(平成27年9月30日)

(単位：百万円)



流動比率 415.1%
自己資本比率 48.9%

500.1%
50.9%

[戻る](#)

平成28年3月期

業績見通し

6. 業績達成のポイント

■創業50に向けて

創業50年に向けた3ヵ年計画「Road to 50th」の最終年にあたる平成28年3月期においては、以下の3つの中核ビジネスを強力に推し進めることが、事業戦略上の最重要ポイントとなります。

(1) ナレッジ型ビジネス

堅調に推移している証券分野に加え、システム統合等の大型案件が控える銀行及び保険関連分野に注力しております。これら顧客のIT投資意欲は続いており、制度改正対応を契機にソリューションを展開して、事業領域の更なる拡大を目指しております。

(2) 提案型（能動的）ビジネス

顧客の中で潜在化したニーズを掘り起こすことに加え、モバイル関連技術等を駆使して新たなマーケット創出に向けた取組を強化しております。

(3) ファクトリー型請負ビジネス

堅調に推移するナレッジ型ビジネスを更に押し進め、プログラム製造等のビジネス受注を拡大することにより、要員の効率的な配置と収益の向上を可能にする、ファクトリー型請負ビジネスの定着に注力しております。

7. 対処すべき課題の進捗状況

対処すべき課題	施策	進捗	
		度合	状況
1. ナレッジ型 ビジネスの さらなる深耕	<ul style="list-style-type: none"> ・年間重点マーケットを定め徹底した深耕 ・安定的な稼働と効率の追求 ・他社との競合から協業へ転換し案件受注を拡大 	○ ○ △	証券、銀行分野のビジネスが堅調に推移。安定稼働を維持して、効率アップを推進中。
2. 中核ビジネス の定着と推進	<ul style="list-style-type: none"> ・提案型ビジネスの始動と成長分野への挑戦 ・ファクトリー型請負ビジネスの推進 ・売上の中核となる長期安定顧客の獲得 	△ ○ ○	製造系大手メーカーと取引開始し、着実に提案実績を蓄積中。
3. 技術者の確保 及びパートナー 企業との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏と地方、広域で採用に注力し人材を確保 ・業務知識とコミュニケーション能力に長けた人材育成 ・ニアショア、オフショアを含むリソースの安定化 	○ ○ ○	パートナー及び採用技術者の確保は順調。社員研修を更に充実し魅力ある人材育成。
4. 採算管理体制の 維持・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率を向上し不稼働による損失の防止 ・PMOによる重点プロジェクトの監視 ・PMRによる事故防止と問題解決 	○ ○ △	東京・大阪の技術者を適切に配置し稼働率が向上。プロジェクトマネジメントの改善サイクルを継続。

平成28年の創業50周年に向け、3カ年計画「Road to 50th」の最終年として上記施策を実施

8. 平成28年3月期業績見通し

平成28年3月期 (平成27年5月14日) 予想	
	金額 (百万円)
売上高	6,100
営業利益	360
経常利益	372
当期純利益	230

変化なし

平成28年3月期 (今回) 予想	
金額 (百万円)	前回との増減
6,100	—
360	—
372	—
230	—

通期の業績予想につきましては、中核ビジネスのさらなる推進を行い収益向上に尽力いたしますが、海外景気の減速をきっかけとした国内経済の先行き不透明感や企業のシステム化投資の慎重化など先行きに警戒感が広がっていることを鑑み、現時点では平成27年5月14日に公表した業績予想通りといたします。



 **株式会社 昭和システムエンジニアリング**

(注意)

本資料における業績の見通しは、当社が現時点で入手可能な情報による判断及び判定に基づき算定しております。

従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の売上高及び利益は予想数値と異なる可能性があり、その確実性を保証するものではありません。